

①ディレクトフォースで私は新日鉄住金株式会社を訪問しました。

この会社は自動車、家電メーカーなどへ素材を供給する素材メーカーの仕事をしています。分野は様々で化学、繊維、硝子などがあります。その中でも新日鉄住金株式会社では鉄鋼メーカーという自然界の原料から高機能の鉄鋼製品を作る仕事をしています。鉄鋼製品の需要はアジアで増えており、右肩上がりになっています。NSSMC(住金)は世界でも二位でとてもレベルの高い会社になっています。自動車用鉄板は海外、特にブラジル、アメリカ、タイ、中国、インドネシアなどの自動車(部品)メーカーに売っています。

営業の仕事ではお客様のニーズに合わせて社内リソース(人、お金、もの)を組み合わせる最適なことを提供します。お客様の車などの設定から加工までサポートするそうです。営業の方は、「仕事の面白さは誰も正解が分からないこと。お客様の信頼が嬉しい。」と言っていました。営業の仕事はお客様と多く関わっていく仕事で信頼されるためには丁寧に仕事をこなしていったり臨機応変に対応できることが必要だと感じました。お客様の信頼を得るために工夫して仕事を行っている社員の方はすごいと思いました。

国人法務の仕事は他の仕事をサポートし、考えを書面や仕組みに落としこむという内容です。法的トラブルの解決、社会コンプライアンスの向上、プロジェクトの支援などを行っています。新日鉄住金株式会社のような大企業ではそのように縁の下のような役割も必要なんだなと思いました。

広報では企業価値、株価を最大限に高める仕事をしていました。誰でも会社について質問された時に答えられるよう心がけているようです。メディアにどう提供すれば興味を持ってもらえるかを考え仕事を行っているそうです。

最後にグループの皆で話し合った際、自己相対化という言葉が出てきました。同じことをしていてもそれに対する考え方は違ってくるという意味です。同じ会社で仕事をしてしても多くの人から多くの考え方が生まれます。他の人の意見も尊重して仕事に反映させることでよりよい仕事ができると考えました。

今回のディレクトフォースで数名の社員の方からお話をいただきました。それぞれ違う担当で、仕事の内容も違いましたがどの方も仕事に対して熱意を持っていてよりよく仕事を進めるための工夫をしており、素晴らしいなと思いました。今回得た経験を将来自分の仕事にも反映させたいです。

②私達の班では、協和発酵キリン株式会社という所を訪問してきました。

この協和発酵キリン株式会社は、創薬の仕事を行っています。創薬の仕事には、タネを見つける探索、効き目を確認したり安全性を確かめる開発、厚生労働省の厳しい審査に通すという大きく分けて三つの過程があります。この会社は中でも探索の仕事を中心に行っており、この探索の仕事は良い病気などの標的が見つからないこともあるためとても難しい仕事となっています。がんや粘液アレルギー、腎臓、そして今のところない中枢神経の薬について研究を進めているようです。

私はこの会社を訪問する前、ずっと実験室にこもって実験を行っている会社だとイメージしていました。しかし、会社を訪問してみると、デスクワークをする部屋、実験をする部屋、より重要な実験をする部屋に分かれており、廊下にあるスペースではにこやかに話している人もいて、創薬研究という堅いイメージが消えました。社内には若い研究員の方が多く、明るい雰囲気の研究を進めているようでした。会社の設備にはよりよい環境で研究するための工夫も見られました。社員同士グループを作って研究を進めていますが、デスクワークをする部屋は一人一人の机の間に壁があり、下を向くと自分の仕事を集中して進められ、上を向くとグループ内の他の社員の顔も見えて相談できるという細かい所での工夫がありました。また、別のグループの研究員とも話し合うことも大切なので、廊下には話し合うための机や椅子が置かれていて、ディスカッションをした際にすぐにメモがとれるように人の身長と同じくらいの高さの大きなホワイトボードが設けられていました。この仕事につく人の性

格について社員の方は様々な意見を出すために多様性が大切だと言っていました。より多くの意見を出すために色々な工夫がされていることが分かりました。また、デスクワークをする部屋と二つの実験室は思ったことを思った時に実験に移せるようにするため廊下を挟んだすぐに行ける距離にあります。デスクワークをする部屋と実験室の間の廊下は絨毯になっていますが、実験室と実験室の間は薬品を持ち運ぶこともあるため、こぼれてもすぐに拭けるように床はツルツルとした素材になっています。また、実験室には他の施設では数台しか用意出来ないような高額な機械が何台も設置されていて、より高度な実験も出来るようです。会社の庭にはテニスコートもあり、昼休みは社員で賑わい息抜きの場になっているようです。普通の創薬研究の会社などは家や店が周りにないような場所に会社が建てられますが、この会社は住宅地の真ん中にあります。薬について研究する会社というと危険なのではないかというあまり良くないイメージを持たれがちなのですが、この会社ではテニスコートを近所の人のために開放したり大会を開いたり近所の人達との付き合いにも気を配っているようです。

また、社員の方への質問で仕事や会社について多くのことが分かりました。一つの薬を開発するには数百億円かかり、その多くは人を使った実験をするのに患者を集めたりすることでかかるそうです。薬を開発するためには会社の人だけで百人ほど関わって仕事をします。薬は何年もかけて一つのもを作り上げますが、探索に二～五年、開発に四～七年、審査に一～二年かかり、一番忙しい時期は準備をする段階だそうです。ある社員の方はこの仕事をして海外へ行き、様々な外国の方とミーティングを行って話し合い自分の世界が広がったそうです。今回協和発酵キリン株式会社を訪問させてもらって創薬研究についての様々なことが分かり、創薬研究についての興味が湧きました。訪問させてもらった協和発酵キリン株式会社は設備や環境が整っており、ここで働きたい！と思うような職場でした。将来この会社に就職出来るように勉強を頑張っていきたいです。

③OB、OGの方のお話で色々なことを学びました。

最初にお話を聞いたのは一橋大学の先輩でした。先輩が通う一橋大学は自然が多く、授業を通して友人との関係も深められるような大学だそうです。先輩は地球一周したようで、とても綺麗な写真も見せてくれました。先輩の写真で私も海外への興味が湧きました。先輩は、勉強は自分でより効率の良い方法を考えて進めることが大切だと言いました。私も先輩のように充実した生活を送るために勉強の効率の良い方法を探していこうと思います。

最後にお話を聞いたのは日本酒を世界に広めるために活躍している先輩です。先輩は日本酒を広めるために単身でニューヨークへ行きました。先輩は勢いと営業力を持っていて、夢を現実に変える力があると感じました。私も先輩を見習って自分の今持つ夢のために行動していきたいと思いました。

先輩方の話はどれも素晴らしく、勉強を頑張ろう！という気持ちになれました。先輩の話を聴けて本当に良かったです。